

熊野町地域公共交通活性化協議会（第7回会議）

日時：令和5年11月21日（火） 9:30～10:30

会場：熊野西防災交流センター 集会室



1. 開会

2. 会長あいさつ

高井会長

- ・議論が大詰めに差し掛かっている。本計画が直に関係する立地適正化計画でも議論を進めている。忌憚のないご意見を頂きたい。

3. 議事

（1）第6回協議会の意見と対応

事務局

《第6回協議会の意見と対応について資料1に基づき説明。》

（質問事項なし）

（2）熊野町公共交通計画（素案）について

事務局

《熊野町公共交通計画（素案）について資料2、資料3に基づき説明。》

鴨下委員

- ・立地適正化計画との整合性についてと目標値を平成29年に定めた理由について伺いたい。

事務局

- ・立地適正化計画との整合性については、各協議会で出た意見を踏まえ、庁内で検討し整理を進めている。本計画は立地適正化計画と同時に進めて行かなければ達成できないと考えているため重要と考えている。
- ・目標値を平成29年に定めた理由については、公共交通の利用者数を見ると平成29年までは微増傾向にあったが、平成30年7月豪雨やコロナ禍により利用者数が減っている。本計画では、交通拠点施設を整備し、公共交通について大きく取り組んでいこうとしていることから平成29年を目標値とした。

鴨下委員

- ・立地適正化計画との整合性については漏れがないように計画を作っていただきたい。
- ・近年の物価高騰などの影響や給与水準の確保などの点から平成 29 年の水準では交通事業者として事業の継続が困難な水準である。交通事業者も色々な施策は講じていくが、平成 29 年を最終的な目標値とするのではなく、通過点として中間的な目標値という考え方で取り組む表現としてもらいたい。

高井会長

- ・目標値をどのようにして定めたのか、どのような改善を想定しているかを補足説明してほしい。

事務局

- ・平成 30 年豪雨やコロナ禍により利用者が減少に転じる前の平成 29 年を目標値とした。現況に対して大きな目標であるが、交通拠点施設の整備やまちづくりと連動して実施していくことで、まちの活性化を図っていききたい。その考え方を踏まえて、その他の指標についても平成 29 年を目安とする目標値として設定した。

高井会長

- ・熊野町においては長い間公共交通が課題となっていた。非常に大変な目標値となっているが、立地適正化計画と連動して、まちづくりを含めて総合的に本腰を入れて改善いくという強い意志があると捉えていただきたい。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局

《今後のスケジュールについて資料4に基づき説明。》

高井会長

- ・パブリックコメントの具体の期間はいつか。

事務局

- ・パブリックコメントは 12/4～1/4 の 1 か月間の実施を予定している。追加のご意見等があれば今月中にご意見を頂きたい。

高井会長

- ・パブリックコメントを受けて計画書を作成し、第 8 回協議会で最終の内容の確認となる。

■その他ご意見

栗原委員

- ・以前、私鉄総連の活動方針を伺ったことがある。当時は国民の移動手段を守り、労働者と多くの人の雇用を守ることをスローガンに掲げていた。今の私鉄総連の活動方針と本計画の方針との整合性についてご意見いただきたい。

堀越委員

- ・私鉄全体で運転士の不足が喫緊の課題になっており、新聞等の報道であるように長い拘束時間や低賃金などの労働条件の改善が必要になっている。公共交通の衰退をはじめ、人口減少や高齢化など日本全体の流れをどう食い止めているかという部分で活動しているが、これをすれば、すぐよくなるという具体的な改善策がなかなか出てこない状況である。長い目で見ても如何にこの状況を打開していくかという考え方で取り組んでいるが、今取り組まなければこの先がないという問題点も抱えている。一つの事業者では成り立たない事業になりつつあり、行政からの支援が不可欠になっている。

高井会長

- ・熊野町では交通に対する課題は長らく続いている。いろいろな団体・グループが協力して公共交通に取り組み、発展させることで、町も発展し、人口減少に歯止めがかかっていく。今後も高齢化が進んでいくため、若い人から高齢の方まであらゆる人が、公共交通を自分たちの移動手段として使える町としていくことで、この町の将来の繁栄がある。協力体制をとって計画を進めていきたい。

神田副会長

- ・担い手不足やサービスの維持といった公共交通の問題に対して、事業者に頼めばどうにかなる時代は過去のものになったのが現状である。そうした中で計画を立てた後の方が大事になっており、如何に関係者間のコミュニケーションを密に取っていくか、住民のいろいろなきめ細かなニーズを把握していくかが今後の課題である。普段コミュニケーションをとることで風通しよく事業を進めて行くことができることもあるため、計画策定後を如何に進めていくかについて、今後も議論していきたい。

4. 閉会

高井会長

- ・以上で議事は終了する。